

河川4 戦前の那賀川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「那賀川改修史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、1981年)、197-198頁	<p>那賀川上流における改修 (中略)昭和7年度以降昭和9年度の3年間は、農村匡救事業により初めて政府の助成金交付事業として認められ、さらに昭和9年度以降は、災害復旧助成金交付事業により施工された。 農村匡救事業としての木材流送路の開削に対し、県は「木材流送路仕様書」をつくり、その規定に従って工事を施工させることにした。(中略) この工事によって、木材流送費は3分の1に低減せられ、一方では河幅や屈曲がある程度整理されたことにより、河水の流下をよくし、治水の目的も達せられたのである。</p>
建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「那賀川改修史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、1981年)、202頁	<p>那賀川下流における改修 (中略) 那賀川の北岸は早くから開けて人家も密集し、奥地の木材を製材する挽座などのような工業が発達し、それに伴う商業も発達していた。それに対し南岸はほとんど農家で戸数も少ないことから、北岸の堤防を守るためにこの分派水路は長く放置されていた。しかし、ようやく拓いた田圃を守るためには、洪水を制御する以外方策はなかった。このため小洪水を断ち、大洪水の一部は越流させる堤防、すなわち“ガマン堰”が誕生することになる。明治2年のことである。 これが“ガマン堰”の始まりであり、この誕生と撤去は、那賀川改修の歴史として特筆すべきものである。また同時に、堰止(平水時に断水し、洪水時は流す)、竹原井、竹原用水井利を完成したことにより、南岸の耕地はようやく安定してきたのである。</p>
四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、323-324頁	<p>ガマン堰の締切り ガマン堰の締切りの計画は派川岡川分派口(ガマン堰)を締切って本川と分離し、また下流で桑野川と本川が合流する旧富岡町芥原に締切堤防を設け、本川の背水が影響を及ぼさないようにする計画で、十六年五月に着工された。(中略) この締切工事は、順調に進展し十八年に完成して抜本的な対策が図られた。</p>
建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」(四国建設弘済会、1988年)、194頁	<p>がまん堰の締切り (中略)このがまん堰は本川の洪水流量の約1/3を分派していたので、河積不十分な岡川は、本川の出水ごとに甚大な被害を繰り返していたものであるが、昭和18年度には締め切られ岡川沿川は本川の直接の洪水から防護されるようになった。</p>
建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局二十年史」(四国建設弘済会、1978年)、112頁	<p>がまん堰の締切り (中略)このがまん堰は本川の洪水流量の約1/3を分派していたので、河積不十分な岡川は、本川の出水ごとに甚大な被害を繰り返していたものであるが、昭和18年度には締め切られ岡川沿川は本川の直接の洪水から防護されるようになった。</p>
建設省四国地方建設局編「四国地方建設局十年史」(建設省四国地方建設局、1968年)、79頁	<p>がまん堰の締切り (中略)がまん堰は本川の洪水流量の約1/3を分派していたので、河積不十分な岡川は、本川の出水ごとに甚大な被害を繰り返していたものであるが、昭和18年度には締め切られ岡川沿川は本川の直接の洪水から防護されるようになった。</p>